

ウクライナにおける戦争の即時停止を求める特別決議

2022年2月24日、ロシアはウクライナに軍事侵攻し、首都キエフほか各地の軍事施設を空爆するとともに、地上部隊が国境を越えて侵入し、兵士および一般市民を殺傷しました。私たち北海道合唱団は、平和を希求するうたごえ運動の担い手として、いかなる理由があろうともこのような戦争行為を許すことはできません。ロシア政府に対し、ウクライナから直ちに軍を撤退することを要求し、また関係各 government および北大西洋条約機構に対し、平和的手段による紛争解決を図ることを要請します。

私たち北海道合唱団は、2001年以来5回にわたり、ウクライナ出身の歌手、ナターシャ・グジーをゲストに迎えて演奏会やうたごえ祭典を開催し、ともにうたごえを響かせました。ナターシャはチェルノブイリ原発事故で被曝した子ども達を救援するコンサート活動を行い、現在も原発ゼロを訴えて活動しています。彼女自身もチェルノブイリの被曝者でした。私たちは、ナターシャを通じて、ウクライナの悲しみ、喜び、そして希望を知りました。その友人の祖国が今、軍事侵攻を受け、危機に瀕しています。私たちはこれを見過ごすことはできません。

私たち北海道合唱団は、1980年以来7度にわたり、ソビエト連邦およびロシア連邦を訪問し、ハバロフスク、イルクーツク、モスクワ、レニングラード、ヤクーツク、ヤロスラブリなど多くの都市で公演を行い、たくさんの友人を得ました。彼らは、みな音楽と平和を愛し、陽気で優しい人々でした。彼らは、自分たちの国の政府が戦争を始めたことに胸を痛めていることでしょう。私たちが敬愛するロシアの友人たちは、この軍事侵攻を決して支持してはいない。ロシア政府の行為は国民の支持を得ていない。私たちはそう信じる根拠があります。

私たち北海道合唱団は、1949年の創立以来、一貫して「うたごえは平和の力」をスローガンとして、音楽を通して平和を訴え続けてきました。戦争は人々の暮らしも文化も破壊します。そして多くの命を奪います。日本は、1940年代の戦争の経験からそのことを学び、二度と再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意しました。

私たちはロシアの音楽を愛し、尊敬してきました。ナターシャを通じてウクライナの音楽の素晴らしさを知りました。それらは決して戦禍にまみれてはならないものです。そして、ウクライナの市民の命、ウクライナ軍の兵士の命、ロシア軍の兵士の命、それは一人として戦争で失ってはならないかけがえのないものです。

戦争を直ちに停止し、関係各国が冷静に平和的解決の道を選ぶことを、強く訴えます。
以上、北海道合唱団定期総会において、団員の総意により決議します。

2022年3月6日

ロシア連邦大統領 ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン 殿
ウクライナ大統領 ウオロディミル・オレクサンドロヴィチ・ゼレンスキー 殿
合衆国大統領 ジョセフ・ロビネット・バイデン・ジュニア 殿
北大西洋条約機構事務総長 イエンス・ストルテンベルグ 殿
日本国内閣総理大臣 岸田文雄 殿

北海道合唱団 団長 河地俊広